

V「京街道」に沿って(高麗橋から守口まで)

1. 「京街道」について

- ・京街道は、大坂の「京橋」(後に高麗橋)から守口に出て淀川左岸を進み、枚方・淀を経由して京の伏見に向かう街道で、大阪城と伏見城を結ぶ軍事上も重要な街道であった。文禄3年(1594)に伏見城築造に着手した豊臣秀吉が、文禄5年2月に毛利一族に命じて淀川左岸に築かせた「文禄堤」が起源とされている。
- ・この街道筋には、守口、枚方、淀、伏見の4つの宿場が置かれており、江戸の日本橋から京・三条までの「東海道53次」に対し、大津宿から分岐して京街道を辿り大坂・京橋に至る道筋で、「東海道57次」と称されている。
- ・当初は、大阪城北側の「京橋」が起点とされていたが、大坂城の惣構が整備されて東横堀川に架かる「高麗橋」が大坂への道筋の玄関口(西からの守りの要)となり、街道里程の基準点に定められたことから、「京橋」より西に延ばされ、「高麗橋」が起点になった。(「京橋」は、大坂城の北の虎口(京橋口)の北側、寝屋川(古大和川)に架かる公儀橋)

2. 高麗橋から守口までの道筋

(1)「高麗橋」から「京橋」まで

- ・高麗橋筋を東へ、紀州街道(松屋町筋)を少し北へ上がって天神橋南詰東南角にあった「紀州・和歌山藩蔵屋敷」(旧・近畿郵政局)の裏(南)側を東に向い、北大江公園を横切って、谷町筋(天満橋)に至る。(この南側が、「八軒家浜(三十石船の発着場)」。)少し北側を東に入り、「大阪歯科大附属病院」の東南角を北へ、すぐ東に折れて「ドンセンター」北側を東へ進むと「京橋」南詰に至る。(「ドンセンター」北沿いに、豊臣期・大坂城の北側石垣跡がある。)

〈「高麗橋」から「京橋」までのマップ〉

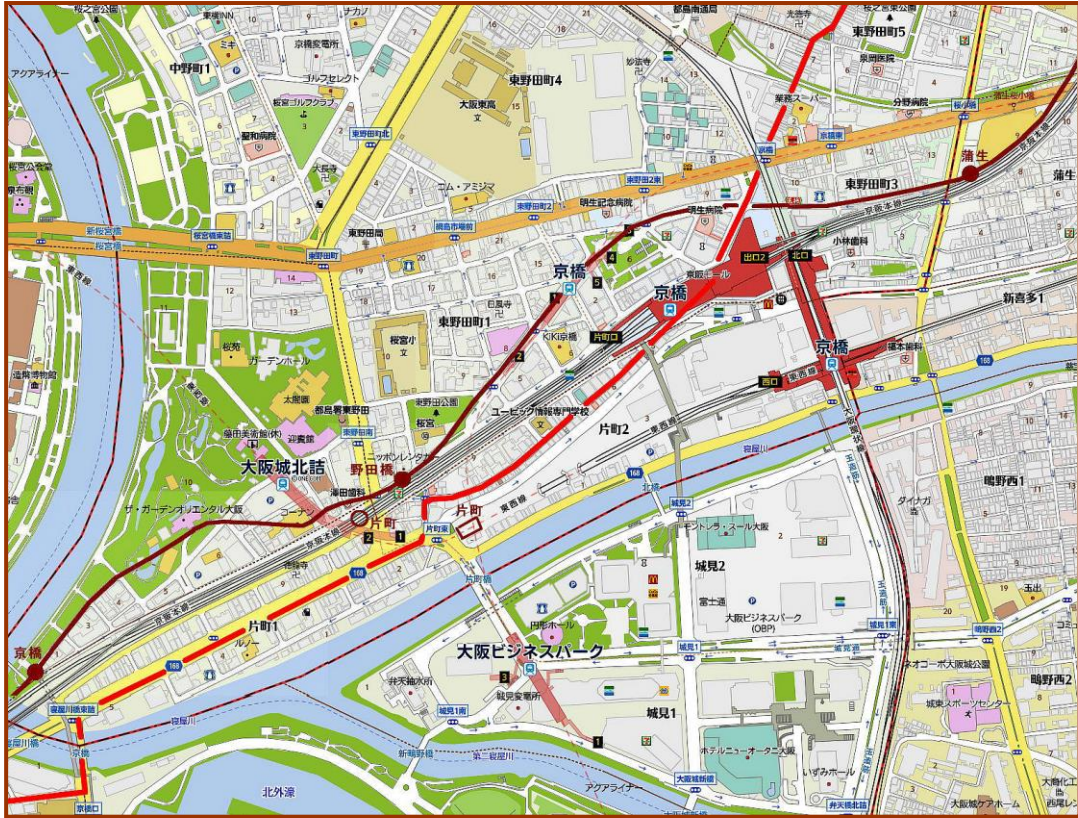


(茶色線は、京阪電鉄の開業時の路線…以下、同じ)

(2)「京橋」から野江内代まで

- ・「京橋」北詰から現・京阪電鉄の一筋南の筋(168号線)を東北に進み、現・片町東交差点付近で旧・鯉江川に架かる「野田橋」を渡って一筋北側の道(土手堤)を進んで、現「京阪モール」を斜めに横切り、JR環状線ガードを潜って「新京橋商店街」に入る。商店街に入って2つ目の広場(京橋ドーム)に「京かいどうの碑」がある。(「京阪モール」の北側角に「右 大坂 左 京みち」の道標が建つ…もと野崎・奈良へ向かう「古堤街道」との分岐点にあったものを移設。)
- ・北側に続く「京橋中央商店街」を抜け少し行くと左手(西側)に「榎並地蔵」の祠がある。榎並地蔵(都島中通3丁目)は、2体の石地蔵が祀られており、もとは少し南東の旧・榎並川にかかる水香橋の袂にあったとされる。向いに「京かいどう」の石標が建つ。
- ・北進して都島通を左(東)折ると、野江内代に至り、大阪メトロ・谷町線(昭和52年4月に都島から守口まで延伸)の野江内代駅とその東側に「野江水神社」がある。

＜「京橋」から「新京橋商店街」までのマップ＞



「野江水神社(ノスイジンジャ)」 城東区野江4丁目1

- ・天文2年(1533)、細川晴元の家臣・三好政長がこの地に榎並城を築城した際、この地は度々水害が発生していたことから、城内に水神である水波女大神を祀ったのがその起こりとされ、社殿がある場所は当初から変わっていない。天正11年(1583)、豊臣秀吉が、水火除難の守護神として当社を篤く崇敬し、社殿を修築している。
- ・明治18年(1885)の淀川洪水によって本殿が倒壊したが、明治21年に本殿が再建され、大正11年(1922)には幣殿が増築されている。(大空襲の被害は受けず)
- ・なお、鳥居の脇には明治18年の淀川洪水の際に流され漂着したという水流地蔵尊と白杉大明神が祀られている。

(3)野江内代から関目まで

- ・野江4丁目交差点北寄り(「京街道」の石標)から東北方向への側道を進み、野江国道筋商店街(平成の終りに閉鎖)に出て、現・JR東大阪線(旧・城東貨物線)ガードを潜って少し進むと(旭東ゴルフガーデンの手前付近)、左手にカーブが連なる道が続く。これが世に言う「関目七曲がり」で、東手に「関目神社」を見て、関目高殿に至る。

「関目七曲がり」… 関目側の端に「京街道」の石標

- ・豊臣秀吉が大坂城防備の一策として設けたもので、道路を何度も湾曲させることで、敵軍の進軍速度を緩めるとともに城からその陣容・軍勢を察知するようにしたもの。

「関目神社」 城東区成育5丁目15

- ・境内の案内には、
「須佐之男尊神社 通称:関目神社 当社は、天正8年(1580)、豊臣秀吉が大坂城築造の際、防備の一策として、関目より古市森小路の間十余町の道路を特に屈曲させて(俗に七曲りという)敵兵の進軍を俯瞰し、その陣容・兵数を察知するのに便利にようにした。これと同時に、北の護りとして武神の須佐

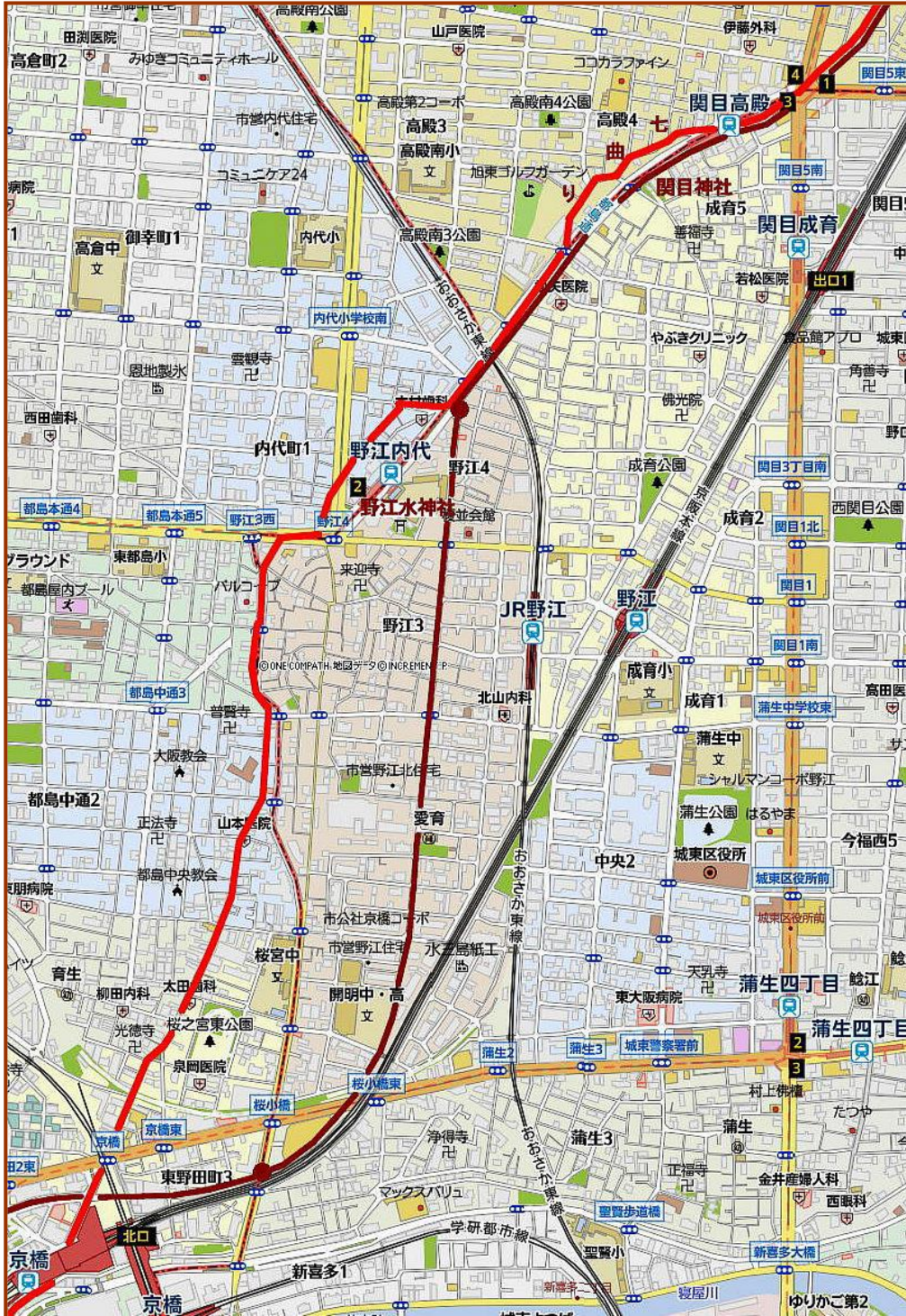


之男尊を祀り崇敬すると共に、浪花の鬼門に当たるので、鬼門鎮護の神として毘沙門天を勧請して小祠を建立したことに始まる。」とある。

・境内正面中央に、入母屋造・銅板葺きの拝殿と背後に幣殿を介して本堂が南面して鎮座し、左手(西側)に毘沙門天堂が建つ。

・境内南側に、自然石に「関目発祥之地」と刻した石碑があり、「この地は元関目といい古くは榎並荘の時代からあったもので、関目というのは、この地に見張所(目で見える関所)があったことから起こったという。」と記されている。

<野江内代から関目までのマップ>



(4) 関目から千林まで

・関目高殿交差点には5車線が交差している。南北に「国道1号線」、西南方向に「都島通」、東方向に「国道163号線(大阪四日市線)」が交わり、国道1号線と国道163号線

の間を斜め(北東方向)に「京街道」が通じている。(角に「京街道」の石標あり)
・「歴史の散歩道」の印が入った道筋を真っ直ぐ進んで、城北川(昭和15年12月開削のもと城北運河)に架かる「古市橋」を渡り、京阪電鉄「森小路駅」の東方付近から「森小路京かいどう商店街」を通り抜けると、「千林商店街」に交差する。

(この間に、「京街道の碑」(森小路東公園)と「京かいどう」の石標が建つ。)

「千林商店街」

・京街道と野崎観音を結ぶ「野崎街道」沿いに形成された商店街で、明治43年(1910)4月に開通した京阪電気軌道の「森小路駅」(京街道の東側)が設けられたことを機に付近に商店が店開きし、明治45年頃から呉服・衣服・身廻品及び生鮮三品等の生活用品が何でも揃う商店街として発展してきた。

・デュークエイセスの”いち(一)・じゅう(十)・ひゃく(百)・せん(千)・せんばやし(千林)♪ 親しみの町、千林♪”のテーマソングでその名が知られ、戦災を免れた「日本一安い商店街」として「天神橋商店街」と並び称される。

・また、スーパー「ダイエー」(現・イオン)発祥の地としても有名で、昭和32年(1957)に現「千林駅前」に「主婦の店・ダイエー薬局」が店開きしている。

<関目から千林までのマップ>



(5) 千林から守口まで

・千林商店街を越え、「歴史の散歩道」の印が入った道筋を北進すると、国道1号線(京阪国道)に突き当たる(「京街道の碑」と「京かいどう」の石標)。国道南側の地道を東に進み、大阪内環状線を通り過ぎて、土居の京阪商店街から東通商店街を東に進む、途中右手(南)に「守居神社」がある。日吉公園の一筋東の道を右折し、緩やかな坂を登ると「京街道 陸路官道第一の驛 守口」の陶板レリーフがある。道なりに左手に進んで「善天寺」の前を通り、「守居橋」、「本町橋」(いずれも下に道路が通る陸橋)を渡って、右手(南東)に京阪・「守口駅」を眺めながら「本町通り」に入っていく。

(太子橋今市、土居付近の街道筋は、淀川の付け替えで不明確なところが多い。)

「守居神社」

守口市土居町2

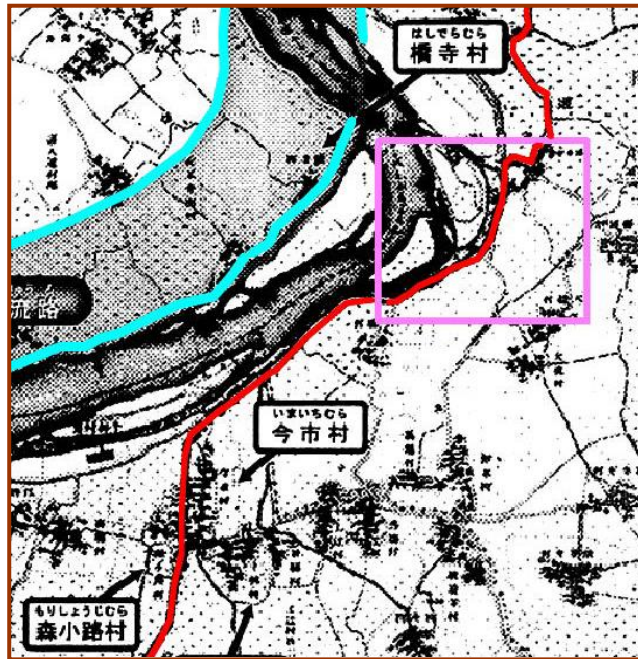
・「守居神社略記」によれば、概ね「当神社は、醍醐天皇の延喜18年(918)、此の地に鎮座して、素盞鳴命・賀茂別雷神をお祀りし、社記に、天道神・太歳神(タイサツシ)・歳殺神(サイセツシ)、また素盞鳴命・三輪明神・清瀧明神・日吉権現・新羅明神・三井神とも書かれている。いずれも淀川流域の守護神として此の地に土居(土塁)を築き、社殿を構えてお祀りされたのが創りで、地名を土居の庄と称し、昔は土居神社と称号されていた。」とある。

・昭和9年(1934)9月の室戸台風で被災したが、昭和16年10月に境内地を拡張し、現在の社殿に造替えられた。

「義天寺」 守口市本町1丁目8

- ・本門佛立宗の寺院で、同宗の開祖・開導日扇聖人が入滅された場所に建っている。
- ・明治23年(1890)、「義天閣」として建立され、昭和21年に「義天寺」と公称された。
- ・虫籠窓 やうだつのある町家が並び宿場町の風情が残る「本町通り」を進んで、交差点を右手(東)に入り、道標が建つ「難宗寺」の北西角を左折して、「盛泉寺」の前を北進し京阪国道を渡ると間もなく左手(西側)に「守口宿一里塚跡」がある。
- ・「本町通り」は、秀吉の命で築かれた「文禄堤」の跡で、かつては淀川がここまで廻り込んで流れていた。(明治18年の大洪水の後、北側に緩やかな流れに付替えられた。)

守口付近の「淀川」の新旧対比 (水色が新しい流れ)



「難宗寺」 守口市竜田通1丁目5

- ・文明9年(1477)、浄土真宗・蓮如上人により創建され、「守口御坊」と称された。
- ・享禄4年(1500)、祖父・蓮如上人ゆかりの坊舎が荒れているのを嘆いた実円が、坊舎を再興し、付近一帯(旧守口)を寺内町として整備した。
- ・本願寺が東西に分派された後は西本願寺に属し、「西御坊」と呼ばれるようになった。
- ・元和元年(1615)の兵火で焼失したが、寛永15年(1638)と文化4年(1808)に再興された。梵鐘には天和2年(1682)9月の銘がある。



「難宗寺」本堂



「盛泉寺」本堂

「盛泉(ジョウセン)寺」 守口市浜町1丁目2

- ・慶長11年(1606)、浄土真宗・教如上人により創建され、同16年に東本願寺別院となって、「東御坊」と呼ばれるようになった。

・元和元年(1615)の兵火により焼失し、幾度も風水害を受けたが、天保6年(1835)に再建された。

・門前の道沿いに、「幻の大阪遷都ゆかりの寺 盛泉寺」とする説明板があり、「慶応3年(1867)10月徳川幕府大政奉還、参与・大久保利通は人心を一新するため大阪遷都の急務を進言。副総裁・岩倉具視は公卿が異議を唱える事は必然と考え、表向きは大阪親征の行事とし、密かに、遷都の意志を持った行幸なので三種の神器の天照大神の御霊代・八咫の鏡を連なって、慶応4年3月22日(9月、明治と改元)、明治天皇が大阪行幸されたおり、当坊本堂前に賢所を奉安された由緒が在る。(4月11日、江戸無血開城が実現して大阪遷都論はまぼろしと化し、一転して江戸遷都となった)」と記されている。

「守口宿一里塚跡」 守口市浜町2丁目7

・守口宿の「上の見附(出入口)」にあたる場所で、「一里塚跡」と刻した大きな石碑が建てられている。大名が宿泊したり通過する時は、問屋や庄屋などの宿役人や村役人が、麻上下(アサガシメ)などを着用してこの一里塚まで送迎していた。

<千林から守口までのマップ>

